

次第	担当	内容
1 開会	事務局吉野	<p>令和7年度第2回松江市立図書館協議会を開催させていただきます。</p> <p>皆様、本日は年度末のお忙しい中、本協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。私は中央図書館事務局長の吉野です。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本協議会を始めるにあたり、初めに中央図書館長の須山が挨拶いたします。</p>
2 中央図書館長挨拶	須山館長	<p>おはようございます。本日は年度末の本当に忙しい中、本協議会にご参加いただき感謝申し上げます。昨日の新聞の投稿欄に、「身近な図書館、人と心をつなぐ」という題で、浜田市の方から投稿があり、これを読ませていただきましたら、本当に、図書館というものが、いいものだという風に書いていただき、ありがたいなと思いました。皆様にこういう気持ちになっていただきたいと思った次第でございます。</p> <p>6月の就任以降、ばけばけ、の放映が始まり松江市には、たくさんの方が、来ていただけるという状況になりまして、八雲資料室を備えた図書館としても、来ていただいて、読書を楽しんでいただきたいという風に思ひまして、色々取り組みを進めてきたところでございます。この図書館、特に八雲資料室がございまして、全国から資料を貸していただきたいという依頼も、数多くありました。特に、大きなものと熊本の博物館からも、資料提供のお願いがありまして、2月中旬まで、色々貸し出しを行ったところでございます。4月の11日から大阪の歴史博物館で、小泉八雲について特別展をされるということで、ここにも、非常にたくさんの資料を、今、お貸ししたところでございます。また、皆様も大阪に行かれる機会があれば見に行っていたきたいという風に思います。</p> <p>また、松江市の文化振興課では、小泉八雲を読むという、小泉八雲の作品の感想文コンテストをやっております。中央図書館長が、その審査員の役をずっとやっており、私も、本年度初めて、審査させていただきました。通常であれば、一般の部は30作品程度のところが、去年50作品ぐらい、本年度は80もの作品が、全国から応募があったということで、非常にたくさんの作品を読ませていただきました。感想文の題材になっている、八雲の作品というのは、大体60作品ぐらいありましたので、私もこの機会にそれらを読ませていただきました。有名どころから、非常にマイナーな作品まであったんですけども、知っているはず、と思っていた作品も、この歳になって改めて、読んでみると、また違った感覚を持ったところでございます。今後も、市民の皆様にも、本を読むきっかけ作りを、できればいいかなという風に思っているところでございます。</p> <p>図書館と致しましては、この小泉八雲に関する展示であったり、「よるの図書館」でも小泉八雲を中心に添えたりして、事業を行ったところでございます。大過なく、過ごさせていただいたという事なんですけれども、事務局側と致しましては、前回皆様にご意見をいただいた電子図書館のこと、それから、移動図書館車を更新するという事で、皆様方には名前について、色々ご意見をいただいたりしたところなんですけれども、この2つのことについて、非常に大きな、ウェイトがありました。このことを、本年度は特に中心に据えて仕事を</p>

<p>(会議前説明)</p>	<p>事務局吉野 (約2分)</p>	<p>してきたところでございます。移動図書館の名前のことについて、ご意見をいただいたばかりで、その後どうなったかということをお知らせしておりませんでした。13日に納車されておりまして、お時間がよろしければこの協議会が終わった後に新たな図書館車を、ご覧になっていただきたいと思っております。名前は「へるん号」という名前に決定しました。これについては3月30日に記者発表をするということになっております。</p> <p>ただ、課題もいくつか上がってきております。これは、全国共通のことであると思えますけれども、コアな利用者は非常にありがたいのですが、やはりそこから、新規利用者の増というところに、なかなか繋がっていかないということがあります。これまで図書館にあまり興味がなかった人にも、来館していただいて、また、来館されなくても、本を読んでいただけるようなことを、取り組んでいかななくてはならないと思っております。その中で、色々なPRの仕方、考えているところなんですけれども、マーブルテレビの社長さんのお計らいで図書館のコーナーを作ってもらえるということになりました。皆様にも楽しんでいただいて、図書館に、読書に、もっと興味を持っていただきたいと思っております。</p> <p>今日は、令和7年度の事業報告と、令和8年度の事業計画について、お話ししたいと思います。皆様方が我々に、助言、意見を言っていただくという会でございます。どうか、忌憚のないご意見を頂きますように、よろしくお願いいたします。長くなりましたけれども、よろしくお願いいたします。</p> <p>そうしますと、本日の会議資料のご確認をお願いいたします。まず、会議の、次第、名簿、資料1、資料2、資料3、図書館要覧、館報ちどりの最新号を準備しております。</p> <p>本日は寺井委員におかれましては、所用のためご欠席です。田城委員におかれましては所要のため遅刻されるとの連絡をいただいております。</p> <p>本会は、委員の皆様11名中、出席の委員10名、欠席の委員1名であり、過半数の委員のご出席がありますので、「松江市立図書館協議会規則」における会議開催要件をみたし、本協議会が成立していることをご報告いたします。</p> <p>本日の協議会につきましては、特に非公開の基準に該当する事項はありませんので“公開”とします。会議録につきましては、事務局で会議録を作成後、委員の皆様方へメールで送付させていただきますので、内容のご確認をお願いいたします。修正等がございましたら、内容を事務局までご連絡いただき、その後、修正したものを委員長名で確定し、確定版を再度委員の皆様方に送付させていただいたのち、HPに公開したいと考えております。ご承知おきください。</p> <p>また、本日の会議終了後、ご希望の方については、4/1からの運行を予定している「新移動図書館車」をご覧いただきたいと思っております。</p> <p>それでは、これより先の議事の進行につきましては、床井委員長にお願いさせていただきます。</p> <p>床井委員長、よろしくお願いいたします。</p>
----------------	------------------------	---

<p>3 議事</p>	<p>床井委員長 (約3分)</p> <p>事務局吉野 (約5分)</p>	<p>皆さん、おはようございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。では、早速ですけれども、会議の方に入りたいと思います。議題(1)として「今年度の事業報告」、議題(2)として「来年度の事業計画(案)」、議題(3)として「電子図書館の導入について(報告)」となっております。</p> <p>それぞれ事務局から説明を受けた後に、委員の皆様からご質問やご意見をお伺いする時間をお取りしたいと思います。</p> <p>それでは、事務局の方から説明をお願いいたします。</p> <p>それでは議題(1)「令和7年度事業報告について」を説明します。資料1/P1をご覧ください。昨年末時点における集計です。事業概要を掲載しております。時間の都合で、抜粋して説明いたします。</p> <p>表の一番上「図書館広報」のところ、本日配布の図書館報『ちどり』を年2回発行しました。来週、最終週を迎えるNHKの連続テレビ小説『ばけばけ』の放映により小泉八雲とセツに注目が集まっていることもあり、9月に発行したNo.117号は、「八雲とセツを取り巻く人物相関図」を作成し、No.118号は「八雲とセツの人生を双六」に見立てたものを作成しました。</p> <p>移動図書館車については、平成20年11月から運行を開始し、17年5か月、延べ走行距離は約14万3千キロになりました。2月末時点では小学校や公民館、保育園など75団体に利用していただいています。</p> <p>「読書普及活動」については、平成16年度から実施の「ストーリーテリングのおはなし会」や、9つのおはなしグループのご協力による、市内の小・中学校で実施している「おはなし出前事業」、「語り手養成講座」や「語り手のための講座」、家庭における絵本に親しむ習慣づくりと、絵本を通した親子のふれあいを目的とした「ブックスタート事業」のほか、多数のこどもたちに対する読書推進活動が評価され、令和7年4月に、子供の読書活動の実践において優れた成果を上げたとして、中央図書館が「文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。「松江市立図書館」としては平成20年に同表彰を受けており、17年ぶりの受賞となりました。表彰状については、中央図書館内の児童書コーナー付近に掲示していますので、機会があればご覧ください。</p> <p>P2の「よるの図書館」については、中央図書館では今年度3回実施しました。5月30日は「こども落語」を実施し、その他の回も「八雲とセツ」をテーマにした様々な企画を行いました。特に、今までになかった取り組みとしては、9月26日と12月19日の両日は、今井書店さんと南田町のアルトブックストアさんに来ていただき、松江市図書販売共同組合としてプラバホールのエントランスにおいて、書籍や雑貨類を販売するブース出店の協力をいただきました。本離れ、読書離れということが叫ばれている中、市立図書館と民間書店さんで何か手だてはないか、何か連携していかなければ…といった話し合いの中でご協力いただいたものです。なお、今井書店田和山店さんのリニューアルオープン時には、移動図書館車の臨時巡回をした経緯もあります。併せてご報告いたします。今後もこのように、市立図書館と民間書店さんで何かしらお互いに連携し、本・読書の普及を進めていきたいと思っています。委員のみならず、良なお知恵がありましたら、ぜひ事務局に教えていただきたいと思います。</p> <p>P3の下段、「小泉八雲資料の提供」について、今年度は「ばけばけ」の放送も</p>
-------------	---	--

		<p>あり、八雲資料の提供依頼がかなり多くありました。</p> <p>それから、P4 島根図書館ですが、島根公民館との複合施設ということもあり、公民館とのイベント共催も多く、「よるの図書館」、「たなばた会」、「島根地域文化祭」、「クリスマス会」などを実施し、地域の拠点施設として、賑わいの創出と図書館の魅力発信を行っております。</p> <p>東出雲図書館について、こちらもヨリアイーナ東出雲の中にあり、東出雲支所、公民館、子育て支援センター、地域包括センターとの複合施設ということもあり、多くの人の流れがある施設ですが、こちらも「よるの図書館 in Kiramachi de ないと」やその他イベントを通じて集客と地域住民の読書推進を図りました。</p> <p>簡単ですが、令和7年度の事業報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>												
	<p>床井委員長</p>	<p>ありがとうございました。事務局から令和7年度の事業報告がありました。委員の皆様からご質問・ご意見等をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。</p>												
	<p>石塚委員</p>	<p>色々な取り組みされているなと思えました。資料に例えば、貸し出しの利用状況ですとかの数値の報告はありません。年度が終わっていないが、例年に比べてどうでしょうか。</p>												
	<p>事務局吉野</p>	<p>数値的な資料は用意しておらず、大変申し訳ありません。市立図書館全体として説明させていただきますと、令和5年10月から中央図書館は、リニューアルいたしました。やはり、令和6年度については、リニューアル後ということで、貸し出し冊数は約54万冊、利用者数については約10万9千人という数字が出ております。今年度については、2月末までの集計でございますが、貸し出し冊数は約48万冊。利用者数については、約9万7000人という数字で、3月末の見込みとしては、若干令和6年度よりは下がるかなという風に思っております。</p>												
	<p>&lt;参考／中央図書館&gt;</p>	<table border="0"> <tr> <td>R6年度</td> <td><u>貸出冊数</u></td> <td>約42万冊</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>利用者数</u></td> <td>約8万9千人</td> </tr> <tr> <td>R7年度(2月末現在)</td> <td><u>貸出冊数</u></td> <td>約37万冊</td> </tr> <tr> <td></td> <td><u>利用者数</u></td> <td>約8万人</td> </tr> </table>	R6年度	<u>貸出冊数</u>	約42万冊		<u>利用者数</u>	約8万9千人	R7年度(2月末現在)	<u>貸出冊数</u>	約37万冊		<u>利用者数</u>	約8万人
R6年度	<u>貸出冊数</u>	約42万冊												
	<u>利用者数</u>	約8万9千人												
R7年度(2月末現在)	<u>貸出冊数</u>	約37万冊												
	<u>利用者数</u>	約8万人												
	<p>床井委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>関連して、市の目標として「一人当たりの貸出冊数」の増加を掲げていますが、現状はどうなっているのでしょうか。</p>												
	<p>事務局吉野</p>	<p>リニューアルオープン前に設定した目標ですが、一人当たりの年間貸出冊数を4冊としています。ただ、利用状況としてはまだ達していない状況です。今後、その目標に向けて色々取り組んでいきたいと考えています。</p>												

	<p>床井委員長</p>	<p>ご意見等ございますでしょうか。</p>
	<p>巢山委員</p>	<p>委員の皆様はミニ展示というものがあるのをご存知でしょうか。実は隠れたところであって、とても面白い展示なんです。毎月私はとても楽しみにしているんですけど、隠れていて、ほとんど知らない人が多いと思います。隠れているから良いというものもあるんですけど、自分だけ知ってる、みたいな。でも、展示もとてもいいですし、あれをもっと発信できないかなと思うのと、今回この報告書の中では「月別企画展示コーナー」という形で「管理運営」の方に入ってるんですけども、それは、読書普及活動的なものになるんじゃないかと思うので、こちらにして、もうちょっと利用を推進していただければいいなと思いました。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>ありがとうございます。ミニ展示につきましては、もう少し利用される方に、目に付くというか、分かりやすく表示などを考えたいと思います。それから、報告書に記載する場所についても修正を検討いたします。</p>
	<p>床井委員長</p>	<p>事業報告については、よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、議題(1)については、承認されました。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>議題(2)「令和8年度事業計画(案)について」を説明します。資料2をご覧ください。</p> <p>令和7年度の図書館事業については、資料のとおり、基本的に例年行っている事業を引き続き実施する予定としています。</p> <p>ただ、この中でP1の中央図書館「読書普及事業」のうち、下から2つ目の事業について、「開館40周年記念イベント」としてしています。市立図書館及びプラバホールが、昭和61年6月1日に開館し、まもなく40年を迎える。この40年という節目の年に何か出来ないかということで、財政状況が厳しい中でしたが、予算を要求し、一部予算も削られる中でしたが、事業を検討しているところです。資料では「講演会等」としてありますが、何かしら記念となるイベントを検討しております。</p> <p>財団の方から検討中の事項として少し説明を。</p>
	<p>松江市スポーツ・文化振興財団 成合</p>	<p>大きな目玉企画としては講演会を検討していますが、通年で行うミニイベントも検討しております。まだ案ではありますが、40周年記念とかけて、40冊借りた方へ記念品をお渡しする等、「読書ラリー」のようなことも検討しています。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>次にP1下段の「②定期講座」について、こちらも「ばけばけ」効果もあり、多くの受講申込があったところです。</p>

		<p>この中で、「語り手養成講座」についてですが、市立図書館にはおはなしグループが現在9つあり、小・中学校に出向いたり、「おはなしのへや」でストーリーリングのおはなし会を実施しております。その語り手を養成するための研修会を令和8年度は5年振りに実施したいと計画しております。</p> <p>P2の2) 島根図書館のところですが、島根図書館は、島根公民館との複合施設となっておりますが、今年の秋頃、10月頃に約1か月半程度の工期で、空調設備の改修工事を見込んでおり、その間は休館する予定としています。ご承知おきいただきたいと思います。</p> <p>続いて、P3の5) 図書館ネットワーク推進事業のうち、「移動図書館車の巡回」について。記載のとおり、新年度4月1日から新型車両での巡回を始めます。</p> <p>同じくP3の7) 各種主要施策の推進のうち、「地域書店との連携」ですが、事業報告でも触れましたが、次年度もさらに協議を重ね、よりよい連携の形を模索したいと思っております。</p> <p>その下、「松江市総合文化センターとの連携」については、プラバホールも図書館も“40周年を迎える”ということで、より魅力あふれ、訪れたいくなるようなイベントなど、「音楽と読書」のコラボ企画などを引き続き検討していく。</p> <p>⑦の電子図書館サービスの利用促進については、この後説明します。</p> <p>P3/9) 広報活動についてですが、冒頭に館長からの挨拶にもありましたが、山陰ケーブルビジョン(マーブル)の「まるまる松江」という番組内で毎月1回、「市立図書館」や「本・読書」をテーマに取り上げてもらう予定にしております。</p> <p>その他、10) 郷土資料の整備・活用については、小泉八雲関連の直筆書簡等のレプリカ作成、貴重書籍資料の修復などを予定しております。</p> <p>簡単ですが、事業計画案の説明は以上です。</p>
	床井委員長	<p>ありがとうございました。事業計画案について、委員の皆さんからご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。</p>
	中澤委員	<p>前期のころから学校司書の方の予算について意見してきていました。計画にも学校司書支援と書かれていますが、実際にどのような支援を考えているかお聞かせください。</p>
	事務局吉野	<p>学校司書について直接の所管課は学校教育課ですけれども、当事務局にも、そこから1人、職員が派遣されて常駐しておりますので、基本的には学校の必要な資料が滞りなく支援できるような形で、市立図書館としてバックアップしていきたいと考えています。</p>
	中澤委員	<p>学校司書の人件費予算が年々削られていると聞いています。これまでの図書館協議会でも、図書館事務局から市当局への要請をしていくというおなはしだったと思いますので、引き続き、要請を続けていただきたいと思います。</p>
	事務局吉野	<p>引き続き、そういった部分の要請は続けていきたいと思っております。加えて、学校支援としては本が重たい等の負担もあるところですので、来年度は電</p>

	<p>床井委員長</p> <p>石塚委員</p> <p>事務局吉野</p> <p>須山館長</p> <p>石塚委員</p> <p>事務局吉野</p>	<p>子図書館の導入によってカバーできる部分が無いが、検討していきたいと思っております。</p> <p>昨年度の協議会でも話が出ましたが、やはり学校司書の予算は継続して訴えていかないと確保できないと思いますので、引き続き図書館の方からも働きかけをしていただきたいと、私からもお願いいたします。</p> <p>ほかの方はいかがでしょうか。</p> <p>まだ議会が開会中で予算は確定していませんが、前回の会で、委員長から予算が少ない中で、電子書籍を始めることについては、電子書籍は紙の資料の2割しかなく、まだまだ紙の資料の重要性が高いというお話があったと思います。電子書籍を入れるにあたって、紙の資料費がどうなったのかが気になるところですがいかがでしょうか。</p> <p>次の議題に関する部分ですが、市の財政状況が厳しい中、電子図書館全体の事業費としては約920万円くらいです。そのうちコンテンツ費が約710万円を予算としてはつけていただいております。財政当局としては、電子図書館でそれくらいつけるんだからということもあったかもしれませんが、紙の資料費が約200万近く削減されております。ただ、資料費全体としましては、電子と紙で約490万円増えたということになっております。</p> <p>予算のことについては、もともと松江市は他都市に比べて非常に、図書資料費が少ないと、毎年毎年、財政当局にはそういう話もしながら、むしろ増額してもらわないといけないということをお願いをしているんですけども、一方で非常に厳しい状況だということで、むしろカットしていく傾向でした。今年度についても非常に厳しいところで、電子図書館導入に限らず、今のまをキープする事も非常に厳しいという状況でございました。で、それにまた新規事業として電子図書館を導入するという事で、財政当局からはそれならば、令和8年度については紙の資料を少なくさせてくれないかと話がありました。ただ、次の年度については、また、今年度並みに戻すことも考えるので、ということをおっしゃって、全体のことも考えてやむなく、こういう予算案が今、議会に出されているところがございます。なんとか、紙の資料費予算も、次の年度にはまた復活できるように頑張っていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。前回の会議に、委員長から提示されました資料では、中核都市の資料費や貸し出しの、ひとり当たりの点数が示された資料がありました。あれを見ますと、確実に資料費の多い少ないで、利用が多い少ないが、見てとれる資料だったと思います。ですので、ぜひ、令和9年度は、少なくとも戻るように、ぜひ、お願いしたいと思っております。</p> <p>はい。紙の資料だけでも中核市では最低ランクでありまして、今回電子資料費がついて資料費全体が増えておりますが、それでもまだ、下位を争っているというような状況でございますので、今後も予算の復活に向けて、財政当局に</p>
--	--	---

	<p>床井委員長</p> <p>床井委員長</p> <p>須山館長</p> <p>床井委員長</p> <p>石塚委員</p> <p>成合補佐</p>	<p>説明していきたいと思います。</p> <p>前回の資料の話が出ますが、先ほど、1人当たりの貸し出し数の目標が4冊ということをおっしゃったと思います。前回お示した資料で、資料費と貸し出し冊数は、正の相関がかなり綺麗に出るということ指摘して、その際にもお話しましたが、松江市の人口からいくと大体、資料費の予算は3000万円ぐらいないと、一人当たりの貸出数4冊という目標に到達することは難しいことが予想されます。市として、「4冊」を目標に掲げていくのであれば、それに見合う資料費予算をつけるというところ、皆さんも重々承知のことかと思いますが、ぜひ資料費を、なんとか少しでも積み増すというところに取り組んでいただきたいと、重ねてお願いをしたいと思います。</p> <p>ほか、令和8年度の事業計画案についていかがでしょうか。</p> <p>報告と計画の両方に関わることで補足します。今年度、農林高校さんと開星高校さんと協力して、高校生が「お勧めの本」を紹介していただくという取り組みをいたしました。農林高校さんとは、写真部の写真を館内に展示をするという取り組みもして、図書だけではなくて、学校全体で何かコラボできることがないかという事でやってみました。来年度も、そういう活動をやってもらえる高校がないか、市内の高校に問い合わせをしているところです。2、3、新しい学校もやってみたいと言っていますので、また新しい企画として高校生との協力で読書を盛り上げていくという活動もしていきたいと思います。</p> <p>はい、ありがとうございます。館内にコーナーがありましたけれども、ミニ展示同様、若干目立たないなと思いました。すごく良い企画だと思いますので、もっと目立つといいかなと思いました。</p> <p>他の方は、計画について皆様ご意見はいかがでしょう。</p> <p>地域書店との連携につきまして、色々されていて素晴らしいなと思っておりますけども、実は、去年も一度聞いたと思うんですが、国が書店の支援を始めているということがありまして、図書館も大口ですので、地元書店からなるべく本を買う方が良いというような話が出ております。その中で、おそらくTRCさんが中心だと思うんですけども、なるべく少しでも、地元の書店から本を購入できるような風に、持って行っていただけたらなと思っております。書店の営業さんと話していたところ、なかなか、松江市の図書館買っていただけないと言っておられましたので何とかならないのかなと。もちろん、装備のことや、マークのことがありますので、いきなりドンとというのはいけないと思っていますけど、もう少し地元の書店を応援という意味でも、雑誌以外も地元書店からの購入が増えればいいなという風に思っております。</p> <p>図書館の資料は、購入する時には本そのものだけではなくて、書誌情報も購入しております。そちらをTRCから購入しております。そういったこともあり</p>
--	--	--

		<p>ますので、どうしても TRC から購入する方が、時間的にも、職員の負担も少なくなるというメリットがありますので、こちらでは TRC からの購入をしております。ただ、雑誌は全て地元書店から購入しておりますし、郷土資料も 100% 地元書店から購入しております。職員の負担というのは、タイトルから出版年月日、受賞情報など、たくさんの情報をシステムに全て登録しないといけないので、それを 1 冊ずつ職員が全て行うにはかなりの時間と労力がかかるため、貸出、返却だけでなく、企画や展示も少ないスタッフで行う中で、効率性も考えて、バランスを取って TRC からの購入が中心となっております。</p> <p>須山館長 書店からもお話をいただいていますし、地元から購入できるのが一番良いとは思っております。ただ、手間やブックコート等の費用別にかかるという課題がありますので、何とかそれらを解決しながら地元からの購入を増やせないかと模索をしているところです。</p> <p>床井委員長 ちなみに島根県立図書館では地元からの購入がどれくらいを占めていて、書誌情報の扱いはどのようにされていますか？</p> <p>石塚委員 県立図書館では、雑誌を除き、全体の 30～35% を地元から購入しています。たくさんの資料を地元から購入すると 1 冊ずつ本のコートかけなども、非常に大きな労力がかかってしまいますので、基本的には、高価な本を中心に地元から購入することにしています。手間をなるべく少なくして、かつ地元にお金が落ちる工夫として、高価な本は地元から買うことにしています。</p> <p>床井委員長 冊数は少なくとも一定のお金が地元へ落ちるようにということですね。</p> <p>須山館長 非常によくわかりました。図書館の性質上、県立図書館のように非常に高価な本、貴重な本について購入することが少なく、市立図書館としては安価でもより市民に身近な本を購入することが多いという面もありますが、参考にさせていただき、当館でも検討したいと思います。</p> <p>床井委員長 県立と市立では蔵書構成がかなり違うと思いますし、書誌情報の登録については、私自身も経験があるのでかなり大変だとは思いますが、国が地元書店の振興という方針を打ち出していますので、何か少しずつでも割合を高めていけるように考えていただけたらと思います。</p> <p>近隣ですと、鳥取県立図書館なども、最初は現場の事情もあり、かなり難しい部分もあったようですが、努力して地元からの購入に持って行ったという経緯があるとお聞きしました。難しい点は多々あると思いますが、少しずつでも地元からの購入の割合を増やしていただけたらと思います。</p> <p>ほかにご意見はいかがでしょうか。</p> <p>床井委員長 私からひとつ。R7 年度の報告の中で、子どもの読書活動推進について「文部科学大臣表彰」を受けられたとのお話がありました。大変に素晴らしいことだと思います。</p>
--	--	---

松江市立図書館が表彰を受けたというのは、やはり他にない優れた実践をされているということだと思います。お話の語り手の養成などは、他の自治体などでもやっているところはありますが、市内の小中学校ほぼ全校に派遣しているのは全国的にも珍しい取り組みだと思います。長い時間をかけて作ってきた取り組みだと思いますが、大学で学生などと話していても、きちんとそれがよい記憶として残っています。とてもよい取り組みだと思いますので、ぜひこれからも継続していただければと思います。

他に、令和8年度事業計画（案）については、よろしいですか。

（異議なし）

それでは、議題（2）については、承認されました。  
つづいて、議題（3）について、事務局から説明をお願いします。

事務局吉野

それでは、議題（3）、「電子図書館の導入について」の報告いたします。「資料3」をご覧ください。

「事業の概要」「導入の目的」「主な導入のメリット」については、資料のとおりです。昨年9月1日に第1回の図書館協議会を開催し、委員の皆様、「電子図書館の導入」について、様々なご意見・ご質問をいただきました。床井委員長からも他自治体との資料費比較の資料をいただきました。

そもそもは、令和元年度に施行された、「読書バリアフリー法」の施行を受けて、障がいのある方や図書館を訪れるのが難しい方を含め、すべての方が読書を楽しめる環境を整備する、という目標を達成するため、現行の「紙の本」を残しつつ、「電子図書館」は図書サービスのプラスαのサービスとして進めていかなければならないとして、その後も私ども担当課としても市役所内においてその必要性や資料費予算の不足を説明してきたところです。結果としては、令和8年度当初予算で「電子図書館運営費」として9,231千円の予算が上程されたところです。本来は、他自治体を参考に10,000千円を超える予算要求をしていたが、市の財政が厳しい折、一部削減されました。財源については、資料に記載のとおり、事業費のうち半分は国の「地域未来交付金（デジタル実装型）」で補填され、残り半分は一般財源で賄うこととなります。

繰り返しになりますが、R8年度資料費予算の金額内訳は、紙の資料費がR7年度比で約220万円マイナス、電子資料費が約710万円プラス、差し引きで資料費全体としては約490万円の増となっております。

今後のスケジュールとしては、5月中頃に、システム業者の「プロポーザル方式」による選定を予定しています。単に価格を争う入札ではなく、業者によってそれぞれ持ち味が違うので、①コンテンツの数や種類、②システムの使いやすさ、③運用や保守管理の面、④今後の学校連携など様々な点を考慮した選定が求められると思っております。

資料に記載のとおり、6月初め頃には業者と契約し、その後どのような電子書籍を入れるか、業者からの提案なども踏まえて、図書館司書、委員の皆様からの意見もいただきながら検討していきたいと思っております。

8月末には市民の皆様にご利用いただけるよう、進めていきたいと思ってい

		<p>ます。</p> <p>なお、学校タブレットでの活用については、現段階でR9年度以降の見込みとしており、調整が整い次第、活用できればと思っております。</p> <p>電子図書館の使い方については、業者により使い勝手や蔵書の内容等が多少違ってまいりますので、業者決定後、様々なことが決まって行く見込みです。基本的には、電子図書館システムを利用する際は、今の図書館利用者カードに記載の7桁の番号が、利用者それぞれのIDになる見込みです。</p> <p>簡単ですが説明は以上です。</p> <p>この電子図書館の導入につきましては、過日、新聞に電子図書館の導入についての記事が載りまして、本来でしたらまず最初に、協議会の皆様方に説明をするのが筋ではあったんですけども、なかなか新規事業ができない財政状況の中で、来年度の教育委員会の予算で、新規事業として議会に予算が出たものですから、記者の方から重要視していただいたという事で取材があり、記事が載ってしまったという事でございます。本来でしたら、最初にこの会にてご説明すべきでしたけども、そういう風にありまして、大変申し訳ございませんでした。</p> <p>前の協議会の際に、大きく2つのプランをお示しいただいていたと思います。バリアフリー・子供中心型と、バランス型とあって、バリアフリー・子供中心型は学校で使うことを中心に据えた形、バランス型は、市民を対象とした電子書籍を中心にする形だったと思いますが、今回予算がついたのは、バランス型的な形で進めるということが、市の方針になったということでしょうか。</p> <p>まずはバリアフリー機能を持った書籍の導入というのは、優先的に入れるんですけども、ただ、新規事業という事で最初が肝心だという風に思っております。市民の皆様は、最初に見ていただいて、なんだこれしかないのかという風に思われてもいけませんので、まず、利用の高そうなものなども導入していきたいという風に思っております。一方で、学校との連携についても見据えていますので、児童書も含めてある程度バランスを取った形での導入は考えています。</p> <p>学校教育との連携をとということを考えておりました。これについては、前回はあったんですけども、やっぱり学校が使うということで、それについてしっかりと説明と、学校の中での利用をするについての話し合いを進める必要がありますので、それについても同時進行で、導入に向けて、どういうことやっていけば一番使えるかということ、学校との協議も始めていきたいと思っております。そういう話がまとまりましたら、令和9年度以降に学校との連携を進めていきたいと思っております。</p> <p>これは8年度予算ではなく少し先の話なんですけれども、学校との連携が始まることになった際に、学校用の資料を買うのは、「電子図書館運営費」の枠組みの中でやるのか、それともまた別に新規で予算要求して、学校用の資料購</p>
	須山館長	
	床井委員長	
	事務局吉野	
	須山館長	
	床井委員長	

	<p>入費という形で取っていくというような形になるのか、今のところ想定している、考えられているところはありますか？</p>
須山館長	<p>先ほど来、話が出ているのですが、本来であれば別物として予算をいただいて準備をしていきたいという風に思っております。本筋としてはそれでいきたいと思っておりますが、状況としてそれが本当に許されるかということもあります。実際のところ、学校でこの電子図書を使うようになると、紙よりも電子の方が使いやすいじゃないかという部分も出てくるのではないかと考えておまして、できるだけ紙の図書よりも電子の方が良いというものがあれば、紙の図書の代わりができるような形も検討していきたいという風に思っております。</p>
床井委員長	<p>ありがとうございます。 それでは委員の皆様ご意見はいかがでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>学校連携は令和9年度以降を予定されているということですがけれども、最初の段階から学校連携を念頭として、選書は慎重にしていきたいと思っております。理由は、学校という場で、市内の小中学生が、全ての電子書籍にアクセスできる環境になるかもしれないからです。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局吉野	<p>はい。学校連携について念頭において進めていきたいと思っております。</p>
井上委員	<p>スケジュール感ですけど、学校との連携というところで、令和9年度以降というところですが、9年度の当初から利用できるのか、それとも途中から利用できるのかというところはまだ未定と考えてよろしいですね。はい。そういう意味では、令和8年度中に、学校と話し合いを重ねながら、利用の仕方も含めて、検討していくということによろしいでしょうか。</p>
事務局吉野	<p>はい。</p>
井上委員	<p>最後1つですが、前回の協議会で、電子図書館の活用を小学校5年生からにするか、小学校1年生からにするかといった議論があったんですが、その辺は、もう何か決まってることがあるでしょうか。以上です。</p>
事務局吉野	<p>あくまでも事務局としては、小学校4年生までは、まだまだ紙の本で、五感を使って学んでほしいということから、5年生からと提案させていただきました。ただ、当然、1年生でも3年生でも使いたい子はおられると思いますので、9年度以降、なるべく良いタイミングで、小中学校の児童生徒の皆さんにはIDをお配りしたいと思っております。図書館のIDとはまた別に、学校の児童生徒さん用のIDを配布するという事は、なるべく早めの良いタイミングであればと思っております。それも含めて協議をさせていただきます。</p>
巢山委員	<p>些末なことなんですけど、「導入の目的」のところに「視覚障がいのある方や</p>

	<p>図書館を訪れるのが難しい方を含めて」とあるんですが、読書バリアフリー法をベースとしてこの導入目的を書くのであれば、「視覚」という言葉は必要ないと思います。全体の障害に関わってくるので、あえて「視覚」を入れる必要はないんじゃないかと思います。読書バリアフリー法は、障害全般をカバーしているはずですので、ここであえて入れる必要はないかなと思います。</p>
事務局吉野	<p>はい。今後の表現については考慮したいと思います。</p>
床井委員長	<p>先ほど、学校で使うということも含めて慎重に選書をしていくという話が出ましたが、今回初めての電子書籍を入れるというところで、まずどういうものを入れるのか。多分、予算的にそれほど潤沢に何でも入れられるという状況ではないと思いますので、例えば、人気のある新刊書的なものなのか、あるいは実用書的なものであるとか、色々な考え方があると思います。業者が決まってから図書館の方でも、色々と考えられると思うんですが、その辺り、皆様、もしご意見がありましたら、いかがでしょうか。</p>
田城委員	<p>基本的なところで質問させてください。まず8月に導入されてからは、個人IDで使えるということですね。子供たちが図書館のIDを持っていれば、スクール端末から入れるという認識で良いでしょうか。</p>
事務局吉野	<p>はい。</p>
田城委員	<p>その上で、学校との協力体制というのは、それを使って教育のカリキュラムに電子の本を使って、教科書の代わりに使うとか、そういうことですね。</p>
事務局吉野	<p>そうですね。調べ学習とかそういったところになると思います。</p>
田城委員	<p>であると、先ほど言った、使い方とか使うかっていうところは、切り離して考えないといけないと、基本的には、誰でもフリーに入っていけるという感じですね。</p>
床井委員長	<p>私から少し補足説明をいたします。8月に導入することを予定している電子書籍は、普通に図書館で貸している紙の本と同じように、誰かがその電子書籍を借りたら、他の人は借りられない、貸出回数も多分52回までとか、そういう形で決まっている電子書籍になると思います。この電子書籍についても、もちろん子供たちも使おうと思えば使えるわけですが、令和9年度から予定されている学校との協力体制のなかで利用する資料は、これとはまた別の形の資料になると思います。すなわち、同時に何人でも、何回でもアクセスできて、クラス全員で一緒のものにアクセスしながら使うような、教育用の書籍のためのパッケージです。これから、それぞれについてどういったものを入れていくかということ、別個に検討していく必要があると思います。</p>
田城委員	<p>保護者の立場から言って、利用数が、やっぱり10代が少ないって思うんです。高校生、小学生、中学生が、アクセスしやすく使いやすくなれば、本を読んでいただいて、本を借りてくれるっていうのは、学校教育もそうですが、</p>

	<p>その保護者としても、彼らに使っていただきたいというのは、もう開始当初から、ぜひ、使えるように、何かをサポートするっていうのは、可能のなっている、そういう確認でした。ありがとうございました。</p> <p>須山館長 特に中学生から高校生に上がった時に、本を読む機会というか、読書冊数が、どっと減っていくということがあります。そこを何とか、高校生の読書を増やそうというのは、松江市の目標にもなっております。そういう時にやっぱり、高校生の皆さんにも入っていきやすい、家で寝転びながらでも、SNSを使うような時にでも、読んでみようかというような感覚で、新しい感覚で本を読んでもらえる機会になるだろうなと思っております。選書のところにも、やはり、若い人たち向けのものも入れなくちゃいけないと。それ考えると、あれもこれもなくなってしまいうんですけども、そういった、色んな目的に合致するような選書を今、考えようとしております。今、おっしゃっていただきましたように、そういう若い人たち向けのものも入れていくということが、非常に重要だという風に思っております。ありがとうございます。</p>
	<p>床井委員長 他はいかがでしょうか。</p>
	<p>石塚委員 先ほどからのお話を聞いておりますと、選書は、大事なんですが非常に大変なのかなという風に思っております。パターンとして、先ほどの話にもあったとおり、貸し切り型という、1人が借りてると、他の人は読めないというようなパターン。それから、回数とか年限が限られた物ですね。それから青空文庫もあります。それから、先ほど、委員長が言われたような調べ学習に特化しているような、オールフリーで使えるもの。それから、新聞報道では、参考書的なものも入れたいというような話、されてるという記事にもなっておりますので、それを全部、なおかつ高校生たちの読みになるものも入れたい。基本的に電子書籍は、紙の図書と同じ新刊というものは、読み物系で一般の人が読むようなものはあまり多くないということもありますので、それを、なおかつ紙の本との副本を考えるかということも、無視するのか、考えるかということがあるんですね。あと、図書館によっては、問題集的なものを入れる、書き込める問題集的なものを入れたいと考えている図書館もあります。かなり、選書をされるのに難儀されるんじゃないかという風に、非常に心配をしております。</p>
	<p>須山館長 おっしゃる通りで、難儀をしております。電子図書館を導入する道がつかず、という話よりも、限られた予算の中で何を選書して入れるのかっていうのが本番だと思っております。最初はやはり何かに特化して、例えば、参考書、問題集、旅行の本とか、この分野について入れました、と発表して行って、まずそれを使ってもらって、その後他の分野を増やしていくという形もあるだろうし、それから、最初から満遍なくということもあるだろうし。というところを、今でも本当に迷っているところです。まだ時間がありますので、色んなご意見をいただきながら、考えたいと思っています。とにかく最初が肝心だと思っております。やってみたら、なんだ、これと言って、全然使ってもらえない、という風になるのを一番、恐れております。そうならない方法がどれなのかということを考えていきますので、今日だけでなくこの後でも、ご意見がありま</p>

	<p>床井委員長</p> <p>床井委員長</p> <p>床井委員長</p> <p>床井委員長</p>	<p>したら、たくさんいただけたらと思います。よろしくお願いします。</p> <p>石塚委員のおっしゃるように、選書は非常に難しい作業になるように思います。コンテンツ予算が700万円ということですが、あまり多くは買えないと思いますので、満遍なく買うと、ものすごく薄くなってしまふところがあると思います。どこに比重を置くかということが大事になってくるかと思ひます。</p> <p>もう一点、気になっているのが、令和9年度以降の学校との連携のところでは、今回の電子図書館の話でいうと、ここが一番重要なところだと私は思っています。一般への貸出用の電子書籍というのは、先ほどもお話ししましたが、一冊ごとに借りられて、返さないと次に借りられないというような、ある意味、電子媒体のよいところを十分に利用できていない、アクセルとブレーキを同時に踏んでいるような仕様になっています。これは図書館の問題というより、出版社のビジネスモデルの問題なんですが、電子資料の一番のメリット、パワーは、やはり、何人でも同時にアクセスできる、どこからでも同時に同じものを使えるという点にあると思います。それを考えると、今、出版物の形態でそれができるのは、教育用の読み放題パッケージなどが中心になってくると思いますので、これを導入できた時にすごく、大きな力が発揮されるというところがあるかと思ひます。</p> <p>電子図書館の最初の導入のところでは、市民向けの一般的な資料を、という形で始めるのも、それはそれとして理由があるとは思いますが、学校向けで使えるものの導入を、ぜひ並行して進めていただきたい。先ほど井上委員からもお話しがありましたけれども、その際に一番大事なのは、学校と緊密に連携することだと思ひます。8年度、学校と丁寧に話し合い、すり合わせて、9年度以降、学校で電子資料を使える体制を、ぜひ、実現できるようにしていただきたいと思ひます。</p> <p>前回の会議をお休みさせていただいたので、2つ質問よろしいでしょうか。</p> <p>この、電子図書の場合、文字サイズの拡大機能ということが書いてあるんですが、フォントの変更とか。例えば、学校で使うということになると、おそらく弱視のお子さんたちには、とても便利になると思うんですけど、そういう場合、フォントの変更ができないと、読みづらい場面が出てきてしまうので、フォントが変更ができるものを、優先的に考えていただけるといいんじゃないかと思ひます。</p> <p>フォントの変更ができたり、文字と背景との白黒反転ができるものなど、色々あるようですので、そういうものも、優先して検討していくつもりです。</p> <p>今、おっしゃったのはUD（ユニバーサルデザイン）フォントと呼ばれているものですね。ぜひ、学校に入れる際は、そういう点も検討してほしいと思ひます。</p> <p>現在の財政下で、新規事業にお金をつけるというのは、すごく難しいことだったと思ひます。これは本当に、図書館の皆様が大変にご努力された結果と思ひますし、市の理解もあって、こういう形の予算を新規につけられたことに敬</p>
--	---	--

<p>4 その他</p>	<p>須山館長</p>	<p>意を表したいと思います。ただ、同時に紙の資料費が削られた点にも留意しなければならない。電子は紙の代替にはなりませんので、次年度以降、紙の資料費を戻すだけでなく、むしろ拡充していくというところに努力していかなければならないと思います。</p> <p>電子の方も900万円のうち半分が国の補助金ですけども、この部分は次年度以降丸々なくなります。そうすると、同じ規模を維持していくのはそのままでは難しいと思いますので、どのような形で着地させるのか。紙媒体の資料とのバランスも含めて、その辺りもご検討いただきたいと思います。</p>
	<p>床井委員長</p>	<p>おっしゃるように、最初、市の方に話をしますと、やはり、どうしても、これを入れるから、だんだん紙の本は電子図書の方に移行していくんだらうという風に考える人が多かったので、そうではないというところを一生懸命、説明をして理解をさせるのが、非常に苦労したところです。最終的には、その理屈については、理解をしてもらった上で、それでも、ちょっと紙の予算を減らさせてほしいということで、こちら折れる部分を持ちながら、やったところなんですけれども、今後もこの戦いは、続いていくと思っております。やはり新しいものが、他の所ではなかなかできないというのがありますので、何とか両方を維持していけるようにということ、それが当たり前だということ、思ってもらえるように戦っていきますので、皆さまからもバックアップをよろしく願いいたします。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>そのほか、ご意見はいかがでしょうか。 (意見無し)</p> <p>次第4.「その他」についてですが、事務局から何かありますか。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>特に用意しておりません。</p>
	<p>床井委員長</p>	<p>今年度の協議会はこれが最後になりますが、本日の会議、その他普段から感じていることなど、何でも構いませんが、委員のみなさまから、何かございますが。 (意見なし)</p> <p>以上、本日ご用意いただいた議題等について、全て終了いたしました。 委員の皆様から沢山のご意見等をいただき、また円滑な議事進行にご協力いただきましたこと、お礼を申し上げます。 それでは、事務局にお返しいたします。</p>
	<p>事務局吉野</p>	<p>床井委員長、スムーズな議事進行ありがとうございました。 ここで、事務局から事務連絡（議事録、委員報酬、駐車券等について）をさせていただきます。</p>
	<p>事務局</p>	<p>(事務連絡)</p>

<p>5 閉会</p>	<p>須山館長</p>	<p>本日は本当にありがとうございました。色々なご意見をいただきまして、特に電子図書については考えていく上で、本当にありがたい意見をいただいたと思っております。この後もお気づきの点などがありましたら、いつでもお話ただけたらと思っておりますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>
-------------	-------------	---